

一色高校 定時制4年のタタです。

私は、15歳の夏にインドネシアから日本に来ました。その頃は、日本語がまったくわからず、ボランティアの日本語教室で週に1回、勉強をする以外はずっと、家で過ごしました。いつもひとりぼっちで、遊んでもらえるのは、兄たちくらいでした。半年たっても、友達はい人もできませんでした。「このままではいけない。自分を変えたい」と思い、ある日、勇気を出して、日本語教室の女の子に話しかけました。でも、彼女は振り向いてもくれませんでした。その日から、私は話すことが怖くなり、人と目を合わせることができなくなりました。

冬になると両親に、「高校に進学しないか」と言われました。「嫌だ」と答えました。日本語に自信がなかったからです。両親とけんかになりました。パニックで涙が止まらなくなりました。でも両親から、「どうしても、高校に入ってほしい」と言われ、定時制の高校に進学することを決めました。KIBOUで入試直前の1か月、過去の問題を解いて勉強し、合格することができました。

高校の先生たちは、漢字にふりがなをつけてくれたので、授業はなんとかわかりました。でも私はまだ日本語がよくわからず、いつも誰かに悪口を言われているような気がしました。学校の帰り、バスを降りて、家が見えると突然、涙がとまらなくなりました。そんな私に家族は、「君ならできるよ」「いつも応援しているよ」と励ましてくれました。

私は、「しっかり勉強して、家族を安心させよう」と誓い、その日から、真剣に授業を受けることにしました。毎日3時間くらい家で勉強しました。日本語や漢字を一文字ずつ意味を調べたり、覚えたりしました。目標ができると、毎日が楽しくなりました。誰かに悪口を言われているとは思わなくなりました。そして、1学期のテストが終わり、クラス順位が発表される日が来ました。結果は、「4位」。驚きました。うれしくて飛び上がりました。こんなに上位とは思わなかったからです。これは大きな出来事でした。日本に来て初めて私の中に「自信」が生まれました。

これをきっかけに、いろいろなことにチャレンジしたいと思うようになりました。文化祭では、先輩たちと一緒にダンスを発表しました。人前に出るのは勇気がいりました。でも、夜遅くまで練習し、クラスの仲間や先輩たちと心を一つにしたダンスをすることができました。発表を終えた時、割れんばかりの拍手をもらい、とてもうれしかったです。

3年生の時は、英検2級に合格しました。英語と日本語を完全にマスターするのが今の目標で、国際文化学科の大学入学を目指しています。一色高校定時制にはいろんな国からたくさんの方が学びに来ています。彼らと話したり、授業で学んだりするうちに、世界の文化に興味を持ちました。そして、もっと深く学びたいと思いました。こんな夢を与え、応援してくれた先生や友達に感謝しています。そして、高校進学を強く勧めてくれた両親にも感謝し

ています。

4年生になって、「学習指導員」という仕事をするチャンスをもらいました。日本に来たばかりの子供たちが勉強する教室であるカラフルで、算数を手伝ったり、カードでことばを覚えるのを手伝ったりしています。週に1回、花ノ木小学校の授業に入って、先生の話聞きながら子供に説明しています。その子供は授業中、手を挙げるようになりました。以前は、日本語がわからなくて、手が出てしまって、けんかになっていたようですが、今はないようです。日本語がわからなくて、言いたいことを言えず、友達にいじめられ、勉強が全然理解できない、そういう子供を見ていると、昔の自分を思い出します。だから、そんな子供たちを心から応援したいと思います。彼らが、いつか強くなれると信じています。

私も、涙をたくさん流しながら努力し、成長することができました。みなさんも頑張ってください。